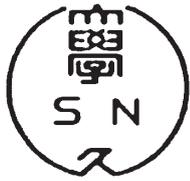


久留米大学医学部看護学科同窓会だより



ふたば

発行所

久留米大学医学部
看護学科同窓会

総数：5,409名

(平成30.3.31現在までの卒業生数)

(題字：藤井名誉顧問)



2018年元旦 篠山城から望む大学病院と初日の出

地域と未来のかけ橋へ



人へ、地域へ、そして世界へ。

ご挨拶

同窓会会長



佐藤 和美
(1部2回生)

同窓生の皆様もうじき総会の季節となりました。懐かしいお顔に会えますこと楽しみです。

同窓会の活動は、代議員・幹事会、そして会員の皆様のご協力の下、事業計画に沿って滞りなくこの一年運営できております。

私は、会長として3期6年目が終わろうとしております。私が、同窓会の仕事に携わることになったのは、昭和63年の久留米大学60周年記念事業に母校の専任教員として関わったことがきっかけでした。書記として長く従事し、副会長・会長と、振り返れば、今年は開学90周年を迎える年ですので、30年間同窓会のお仕事をさせていただきますました。その間、この「ふたば」の発行や編集に、名簿の作成に、会の規約を初め諸々の決まりごとの明文化に、総会の運営や会費徴収のあり方等々、歴代の藤井・秋山・秦会長のもとで整えることができましたと思います。

私は、卒業後臨床現場での看護実践、母校で専任教員としての基礎教育、また臨床に戻っての看護管理、そして今また看護基礎教育の現場でと永らく「看護」の仕事に従事できていることに、特に母校の発展に寄与できることを感謝しています。



顧問



秦 トヨ子
(看護婦養成所45回生)

藤井花子先生を偲んで

同窓会名誉顧問の藤井花子先生は、昨年7月26日、96才の長寿を全うされました。

藤井先生は長年助産師として、13000人もの赤ちゃんを取り上げられました。久留米市からのご推薦もあって、勲五等瑞宝賞を受賞され、同窓会として祝賀会を開催したことを思い出します。今から60年余り前は、殆ど自宅分娩で、電話もタクシーの普及もなく、妊婦の状況により家族が助産師に連絡して駆けつけてもらって助産が始まっていました。出産の前後の妊婦やその家族への説明、指導、相談なども欠かせません。そのようなハードな仕事の中で、時々先生から当大学病院で働く看護師に声かけがあつて、筑水寮という広間に集まりお茶とお菓子を囲んでの交流会が行われ、これが同窓会の始まりであつたかと思われます。藤井先生のご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

これからも微力ながら、先生のお志を大切に当大看護学科の発展と会員の皆様のご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

故 藤井花子先生

加地正郎先生・山下文雄先生を偲んで

両校長先生とも、学生が好きでよく声をかけたり、時間の許すかぎり講義をなさってました。加地校長先生（H29・12・10）は「看護学生が学ぶことは医学の進歩と共に増える一方であり、最高の水準の看護を行うための知識と技術が要求される。そういった厳しい状況の中でも、最も根本的なことは人間性、それは病人に接する時のやさしさ思いやりといった看護の心の教育を忘れてはならない」とよくお話しされてました。山下文雄先生（H29・12・27）は、専門の小児科医学の講義と同時に、ナイチンゲールとヒポクラテスについてお話しされてました。ナイチンゲールの「看護とは単なるアートではない、それは人格である」という言葉を紹介しながら、科学的な判断と同時に感性ある暖かいハートの必要性について、よくお話しされてました。それと同時に以上のような看護教育を進めて戴きました。このことが現在の看護大学の発展につながっていることを感謝いたします。



元看護専門学校教務主任
元看護学科教授
入部 久子

看護学科長

日ごとに暖かさを感じられるようになりました。同窓生の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、入学式、戴帽式、卒業式等、催事毎に温かいご支援を賜り、衷心より御礼申し上げます。

看護系大学、学部等は、平成29年4月には257校267課程となり、僅か30年の間にその数は25倍になりました。看護学土教育の量的拡大においては一定の成果と言えるでしょう。一方で、社会から看護学教育の質保証に重大な関心が寄せられています。急速に代わる保健医療福祉の状況に適切にスピード感をもって対応するため、本学科では看護実践能力育成の充実を特性とする看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラムを検討し、平成31年4月より導入すべく奮闘しております。今後とも同窓会の皆様のご理解と、ご指導ご支援を賜りますようお願いいたします。



久留米大学医学部
看護学科 学科長
三橋 睦子
(I部11回生)

久留米大学医療センター

初夏の候、同窓会の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平成30年4月に、久留米大学医療センター看護部長を拝命いたしました。

当院は「チーム医療センター」を掲げ、職員一丸となり「心が通い、信頼される医療」に日々励んでおります。また平成27年度から大学病院との機能分化が進められ、医療センター独自の医療・看護を目指し、昨年度は院内認定看護師「関節外科エキスパートナース」9名が誕生しました。

医療を取り巻く現状は年々厳しくなり、時代の変化に対応していくことが強く求められてきました。しかしながら看護の本質は不変です。看護師は人の痛みがわかり、優しさと笑顔が良いことが一番だと思います。今後も90年の歴史を紡ぎながら大学病院と協働し、地域に根ざした医療を進めて参ります。同窓会の皆さまのご指導・ご支援を宜しくお願いいたします。



看護部長
大塚 まり子
(I部14回生)

久留米大学病院

初夏の候、同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2016年、あらゆる場における全ての看護師に共通する看護実践能力の指標として「NNA「看護師のクリニカルラダー」が公開されました。当院は、今年度より「NNAラダー」を基本としたクリニカルラダーへ移行します。看護実践能力の核として必要な4つの力（ニーズをとらえる力、ケアする力、意思決定を支える力、協働する力）に自己教育・研究能力、組織的役割遂行能力を加え、学習項目に沿った教育を計画しています。ラダーを活用し、看護実践能力の適切な評価による担保および保証、患者や利用者等への安全で安心な看護ケアの提供に努めます。自己の責任でその目標達成に必要な能力の向上に取り組むために、クリニカルラダーと共にジェネラリストパス・スペシャリストパス・看護管理者パスを提示し、継続教育の機会を提供しています。ホームページに公開講座情報を掲載しておりますのでご利用ください。

「人と地球にやさしい、生命を慈しむ医療」を理念とし、職員一丸となり、邁進する所存でございます。今後ともご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



看護部長
上野 知昭
(II部11回生)



平成29年度の同窓会総会は7月29日ホテルマリタール創世において開催されました。総会出席者は109名でした。総会には、海田真治子（I部19回生）、耕野栄子（I部19回生）の司会により以下の式次第にそつて順次進められました。

一、開会の辞

一、黙祷

一、会長挨拶

一、現状報告

（1）大学病院・医療センター

（2）看護学科

一、受賞者紹介

一、議事

（1）庶務報告

① 諸会議報告

② 活動内容報告

（2）会計決算報告

（3）監査報告

（4）次期事業計画（案）

（5）次期予算（案）

（6）その他

一、閉会の辞

平成29年7月26日に同窓会名誉顧問である藤井花子さんがお亡くなりになりました。同窓会よりご冥福をお祈りしました。

大学病院・医療センターの現状については、久留米大学病院医療センター副看護部長 大塚まり子さん（I部14回生）より報告がありました。看護学科の現状に

ついでには、久留米大学医学部看護学科 中島洋子さん（I部7回生）より報告がありました。

受賞者紹介では、福岡県知事賞 湯浅香代子さん（I部12回生）が紹介されました。

議事は樺島結花さん（I部19回生）、山口しのぶさん（I部29回生）によってスムーズに進行され、同窓会会員の皆様の承認を得ることができました。

書記 大塚まり子（I部14回生）
 築地原幸子（II部11回生）
 水落 裕美（学科5回生）
 首藤 敏夫（学科4回生）
 中山 由麻（学科9回生）

会計



平成 29 年度の総会を担当して



実行委員長

北野 登美子 (I部19回生)

平成 29 年度同窓会総会は、I 部 6 回生、19 回生、II 部 1 回生、看護学科 6 回生が実行委員を務めさせていただきました。同窓会役員の皆様をはじめたくさんの方々にご協力いただき、盛会のうちに本会を終えることが出来ましたことを、実行委員を代表しまして心より感謝申し上げます。

7 月に九州北部豪雨があり、数日前に久留米市は日本一の暑さを記録するなか、ホテルマリタール創世において開催された総会には、来賓や同窓生の方々総勢 109 名、懇親会は 99 名の出席をいただきました。

特別講演は、久留米大学医学部整形外科学教授の志波直人先生に「骨と筋肉の健康維持のために」のテーマで、国際宇宙ステーションでの宇宙医学研究のお話から、身近なロコモティブシンドローム予防まで大変興味深く楽しい内容で講演いただきました。

懇親会は佐藤会長の挨拶で始まり、来賓の内部久子先生、中嶋カツエ先生、小林益恵先生に乾杯とご挨拶をいただきました。先生方のお声とお話は学生時代に受けた講義を思い出させ、みな和やかに昔話に花を咲かせました。余興は看護学科 6 回生の企画により、華やかなフラダンスで始まり、学校や寮生活の写真映写でのクイズは懐かしい時代に戻って盛り上がりしました。今後も同窓会のさらなる発展を願い、またお会いできることを楽しみにしております。



学科便り...

卒業生の動向



看護学科4年生担任
加悦 美恵

看護学科開設20周年の節目から4年、新たな歴史を刻む21回卒業生112名は、平成30年3月20日、看護学十号の授与を受け久留米大学を卒業しました。在学中、同窓生の皆様には折にふれ、温かいご支援をいただき心より感謝申し上げます。

本卒業生の進路状況は、就職は看護師102名、一般企業1名、進学は助産師課程7名、養護教諭養成課程2名です。医療系の採用時期が早まっている中、多くの先輩方に相談ののついでにいたことと存じます。おかげさまで、それぞれ歩みたい道を定め、希望の進路にいたりしました。久留米大病院へは50名もの採用をいただきました。大学入学時より志していた者もいれば、臨地実習が決め手になった者もおります。その他の福岡県内就職者は26名、関東18名、関西6名となっております。全体的に大病院志向は変わらず、8割以上を占めました。

最後に、彼らが受験しました第101回看護師国家試験では、全員合格という見事な結果をおさめました。皆様のご支援の賜物です。希望に満ちあふれ、晴れやかに社会に踏み出した彼らを、今後とも温かくご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

学生生活を振り返って



本松 里菜
(学科21回生)

4年間の学生生活を終えて、改めて看護師という職に就けることの誇らしさを感じています。在学中に入院した際には、同級生と一緒に卒業できなくなったこと、憧れだけではなく看護師になる身として看護師と接する機会を得られたこと、自分自身や今後の進退をじっくり見つめ直す大きな転機となりました。看護師になりたいという気持ちを後押ししてくれた、家族や周りの仲間、先生方などこれまで支えてくれたすべての人に感謝しています。この感謝の気持ちを忘れず励んでいきたいと思っています。



山浦 憲一
(学科21回生)

4年間で振り返って、様々な経験をする事ができとても充実した時間を過ごす事ができたと感じています。同級生の仲間たちと支え合い、また先生方や先輩方のご指導のおかげで、自分一人では乗り越えられない壁を乗り越えていくことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。4月から久留米大病院の看護師として新たなスタートを切ります。環境が新しくなり、戸惑うことや辛いことなども多いと思いますが、これからの壁を乗り越え続け、より多くの命を救える看護師になれるよう努力していきたいです。

研究室だより：老年看護学



老年看護学
中島 洋子
(I部7回生)

我々は社会のニーズから、市のものわずれ相談を13年間務め、ものわずれ予防検診・事例検討会等の活動を現在も継続しています。この認知症支援の取り組みは、高次脳疾患研究所・行政・医師会等の協力で連携が強化されています。その折、平成22年～大学院修士課程で九州初の老人看護専門看護師(GCNS)の教育を始め、GCNS3名を地域に送り出し、後輩も続こうとしています。

教育では、学生が主体的に学び、社会現象等にも問題意識をもち意見を述べ合い高めることで成長・発展するよう工夫し、教員も検診や外来等の活動での実践を踏まえ、高齢者や認知症の人やご家族と真に向き合い支援することを伝えていきます。平成25年の日本看護福祉学会に続き、今年6月23・24日に久留米で日本老年看護学会を「つなぐ・つくる・つたえる―老年看護の創出―」というテーマで開催します。皆様のご支援に感謝申し上げます。人生に寄り添う老年看護の教育・実践・研究の歴史を次の世代に伝え、未来へ発展させ、後輩に繋いでいきたいと思っております。

大学病院活動報告

久留米大学病院認知症ケアチームの活動



秋吉 知子
(学科7回生)

2025年には認知症高齢者が700万人になると推測されており、高齢者の5人に1人が認知症となります。平均寿命の延伸とともに、身体疾患を有する認知症高齢者も増加しており、高度先進医療を提供する当院にも、多くの認知症高齢者が入院しています。

当院では認知症ケアの質向上を目的として、2016年度の認知症ケア加算新設を機に、同年12月に認知症ケアチームを発足し、2017年6月より認知症ケア加算1の算定を開始しました。私は、認知症ケアチームの専任看護師として活動しています。認知症ケアチームは、多職種（医師、看護師、精神保健福祉士）で病棟を週1回巡回し、患者の認知機能評価および認知症症状に応じた対応について病棟看護師や診療科医師とともに検討しています。認知症症状がケア者にとって不可解に感じられ、問題であるとならえられ、真意にたどり着かないこともあります。そのためまずは、認知症に関する正しい知識を持つてもらい、認知症高齢者の微少なサインに気づくことを目標に活動しています。今後は、認知症高齢者とその家族が安心して医療を受けられるよう、入院前からの院内連携の体制強化に向けて働きかけていきたいと考えています。



医療センター院内認定FOTNの活動



大北 美紀
(工部28回生)

平成27年4月から医療センターに足病変（フットケア）・皮膚潰瘍外来が開設されました。爪切りなどのセルフケアが困難な患者さんから、巻き爪/陥入爪、胼胝、糖尿病やPADによる足潰瘍や壊疽など様々な疾患や生活背景をもった患者さんが受診されます。

看護部では、看護部認定ナースFOTN（Foot・足へのOmoi…思いをTunagu…つなぐNurses…ナース）の研修が企画されました。フットケアの実践者であるとともに、疾患との関連性や患者背景など各部署の特長、特殊性に応じたフットケアの体制作りを行うキーマンナースの育成を目的に開催され、8名のFOTN 1期生が誕生しました。

FOTNは、各部署で積極的にフットケアの実践を行い、患者教育やスタッフ指導を行っています。今年度は、フットケアの体制づくりや退院支援に関する研究を行い、2部署が院内研究発表会で発表しました。また、WGが立ち上げられ、多職種連携に関する全体研修や月1回のフォローアップ研修を企画し、事例検討や活動報告を通して、情報交換・共有を行い、部署間での連携を図っています。さらに、フットケア指導士が中心となり、月1回の集団指導を行い、足への興味をもってもらえるような活動を行っています。

今後も、病院全体で、患者さんの足を守り、足を通してその人がその人らしい生活が送れるように支援していきたいと思えます。



FOTN 1期生8名
バッジをつけて
活動しています。



久留米水害時の記憶から



高尾 翠

(旧46回生)
(I部1回生)

旧46回生は、入学3カ月目に筑後川堤防の決壊による洪水に出遭いました。朝からどしゃぶりの雨で、その日の細菌学の授業は中止になり、私達は6階の教室の窓から茶色の水が勢いよく増水し、人を乗せた小森野橋が中央付近で折れて流れるのを見ていました。「学生さんは地下の薬品倉庫に行ってください」と教務主任の大声の指示があり、地下から薬品を運びあげる作業をしましたが、直ぐに「学生さん上がって下さい」という更なる大声を聞いた時、濁流は一階フロアに来ていました。急速な水位上昇で、木造の結核病棟の患者を鉄筋の建物に移動させる為に水の上に戸板を並べロープを伝った避難作業がありました。喀血もありました。夕方、私達は水も電気もない教室に戻りましたが、BS球場のバックネット上に人と牛（近郊の有田牧場）が濁流に流されまいると必死の風景に出会いました。牛も生きようとしていました。二階床上130cmの浸水で、地下の給食現場が水没した為、私たち学生は、復旧まで早朝に起こされ、自衛隊のトラックで患者さんと職員1500個の握り飯作りと、水が引いた後の片付け作業をしました。強いきずなの大切な思い出です。

戦後「朝礼暮改」と言われてめまぐるしく動いた看護教育制度の接点で入学した私達は昨年、傘寿同窓会で母校を訪ねました。学科長のご案内を頂き泥まみれの記憶は心とみえました。

華やきて母校に集う秋日和

(故 信恵)

参考資料1

久留米水害 資料 久留米大学 50年史より
 ①久留米大学病院 近郊 南棟 北棟 正面玄関
 ②決壊した講堂 木造の結核病棟からの鉄筋棟へ水上の患者避難
 看護師が大活躍
 6階 看護学校
 5階 看護教育実習室
 篠山城壁と病院2階バルコニーと連絡をする米軍ポート

③人を乗せたまま流壊する小森野橋 大学病院正面から
 ④鉄筋棟四階 屋上 病棟廊下 二階踊り場に避難している牛

参考資料2
 看護学雑誌 第64巻 第12号 別冊 災害看護ことはじめ



専門学校立ち上げ時の思い出



堤 順子

(I部1回生)

私の学び舎

本校は、昭和42年4月久留米大学医学部付属高等看護学校としてスタートしました。

校舎はまだ設立されておらず、教務室は旧病院の1階管理課の前、教室は玄関中央の中4階エレベーター前の部屋1つ。実習室は大学本館2階の会議室。他関連施設は病院・医学部実習等、久留米大学敷地内を転々としていました。寄宿舎は、双葉寮の屋上に設置されたプレハブ舎での生活でした。夏は暑く冬は寒いため、廊下に氷柱やストーブを置いて凌いだり、初めての経験でした。入浴は毎日病院地下のお風呂に入浴セットをそれとわかないように風呂敷に包み通っていました。生活面での徹底は挨拶と掃除。病院内で出会う人は皆お客様、頭を下げっぱなしでした。古い校舎を毎日掃除し、雑巾が真っ白になるまで石鹸洗いをしたのも初めての経験でした。

このように、緑色の制服で病院内を動き回る学生を、職員の皆さんは温かく迎えられる、歓迎会・バレーボール大会・花見等を企画し、交流を図っていただきました。先輩のいない私達にとって、とても心温かく自然と帰属意識が芽生えたものです。

イキイキ同窓生だより

私の近況報告



関 公子
(I部12回生)

同窓会の皆様、お元気ですか。1980年卒業の関公子(旧姓久留)です。気がつけば卒業38年。還暦を迎えようとする自分に改めて月日の経つ速さを感じている日々です。

娘2人は大学を卒業し、社会人として東京在住、私はオス猫(トム2歳)メス猫(シエリー2歳)2匹とタンナ(オス60歳)と郷里鹿児島に暮らしています。26歳で結婚して、高知県南国市、奈良県生駒市、そして平成5年に鹿児島へ帰って来て現在にいたります。その間も看護の仕事は続けてきましたが、3年ほど前から、主人の会社(電気、水道などの設備工事)の経理を中心とした仕事に就き、看護の一線からは離れたものの、近くに住む両親の世話で完全にというわけにはいきませんね。今は自宅を大型リフォーム中ですが、やっと自分の思いを取り入れた住居が完成することになったという毎日です。オール電化の工事で他人様ばかりだと愚痴を言い続けて、やっとタンナ様も動いてくれて感謝。皆さん、近くにおいでの時、そつでない時でもぜひ我が家にお立ち寄りくださいな。

皆様、益々ご健勝のこと存じます。



丹藤 真弓
(I部24回生)

私は6年前に緩和ケア認定看護師を取得し、現在は外来で勤務しています。主に外来治療を受けている患者の症状緩和、移行期や終末期の意思決定支援、家族支援に力を注いでいます。また、認定資格者で構成したリソースナース会では地域の医療者を対象に「看護塾」と称して技術演習を交えた講義を定期的で開催しています。看護で地域と繋がる良い機会として継続と拡充を目指しています。

資格を取得してからは、いつも我が身を振り返り、私のすべき役割ができたのかと一層考えるようになりました。反省することも多々ありますが、上司の「丹藤さんの看護にはいつも患者さんが中心にある」という力強い言葉が背中を押してくれます。これからも、患者や家族が、より豊かな人生を送ることができるよう力を注いでいきたいと考えています。



戸次 真弓
(II部2回生)

退職後8年、現在デイサービスセンター介護度1〜3、平均年齢87歳、1日平均27名の施設で勤務中です。看護師の主役割は健康チェックです。基本、医師のいない施設ですので毎年の目標を「日々の体温血圧値を把握し、体調の不調に気づき早期に対処できる」をあげています。「観察、状況判断、行動」は学ばせて頂いたことが現在に繋がりに役立っています。又数年前、支援の在り方につき学習会があり上映された「折り梅」をみて感想を基に利用者の方への対応を検討したことがあります。その中で意識していなかった声かけに対し対応を考えたいとの意見があり接遇について以前読んだ資料を提供し学習したこともあります。学生時代に学んだことを役立てることができ嬉しく思っています。

卒業して何十年経っても役立つ知識を学んだことの有難さに感謝し、「ふたば」同窓会のご発展を祈り、私も現役続行したいと思います。



田代 公美子
(学科8回生)

心臓血管外科病棟勤務時、末梢動脈閉塞疾患や難治性潰瘍など足病変に興味を持ち、日本フットケア学会認定のフットケア指導士の資格を取得しました。出産を機に退職し4年近く経った頃、知人の義肢装具士から、千早の「よつばの杜クリニック」のフットケア外来で看護師を探しているのだから、かたがと勧誘されました。子供の事で協力が become なるので母に相談すると、スキルアップ出来るし、協力するからやってみると良いと背中を押され、週1回火曜日の10時から18時で働くことになりました。戸惑うこともありましたが、念願のフットケアに携わることが出来て、充実した火曜日を送っています。足は第2の心臓と言われるくらい大事なところですが、足の爪の切り方や、正しい靴の選び方・履き方など足について習う機会がないのが現状です。食育が広まったように、足育も広まって欲しいと切に願います。一度皆様もご自分やご家族の足をじっくり診てみて下さい。



吉永 明日香
(学科20回生)

入職して1年が経ちました。入職して間もない頃は、本当にこの病院で看護師としてやっていけるのだろうか、先輩たちのようになれるのか、毎日不安でいっぱいでした。多くの患者さんに関わる機会をいただき、学生のころには経験することのできなかった看護処置や技術を実施するなど充実した1年間だったと思います。当科は3科合同ということもあり、日々多くの業務や搬送に追われ、時には効率よく仕事が進まないことや自分の知識不足やコミュニケーション不足により、円滑に看護ができないこともあり、自分は看護師に向いていないと考える時期もありましたが、家族や先輩・同期の声掛けや支えにより、ここまで頑張ることができました。働く中で患者さんに「あなたはよくしてくれて、ありがとう、やまな顔を見せてね」と言っていたいた時に看護師になって本当に良かったと感じます。これからも周りへの感謝を忘れず、あなたで良かった、と言ってもらえる理想の看護師像に近づけるよう日々精進していきたいと思っております。

クラス会便り



学科6回生

工藤 絵美子

卒業して初めての同窓会担当回生となり、20名以上の学科6回生が集まりました。懐かしい顔ぶれにはっこりとしながら、皆で協力しながら同窓会を進めることができ「やっぱり6回生はいいな」と思いました。先生方からも「まとまりのある学年」と褒められつつ、看護師国家試験全員合格を達成したのがつい先日のことのようです。

卒業して早15年。年齢的にも仕事や子育てなどで目の回るような日々。同じ学び舎で過ごした仲間たちはそれぞれ的人生をあゆみ、各々の近況報告に驚きや称賛の声が上がる中、そこには15年前と変わらぬ空気感や関係性がありました。年齢や経験を重ね成長したばかりではなく、「以前と変わらぬいその人らしさ」がやけに嬉しく、温かく感じられた時間でした。無情にも楽しい時間はあっという間に過ぎ、名残惜しさを感じつつ「またね」と再会を祈りました。

全国各地、そして海外で頑張っている6回生の皆とまた会える日を楽しみにしています。

平成30年度
久留米大学医学部看護学科
同窓会総会のお知らせ

- 日 時 平成30年7月28日(土)
- 総 会 10:30～11:45
- 懇親会 12:00～14:00
- 場 所 ホテルマリターレ創世
久留米市東櫛原町900
0942-35-3511

担当回生
I部7. 20回生
II部2回生
学科7回生

同窓会活動

1. 総会と懇親会の開催(年1回)
2. 代議員会・幹事会・三役会の開催
3. 機関誌「ふたば」発行(年1回)
4. 同窓会名簿の管理
5. 会員・準会員・関係者の慶弔に関すること
6. 看護学科の諸行事に出席・贈花
◇入学式、戴帽式、卒業式
◇卒業生に記念品贈与
7. 看護学科の校友会への支援
8. その他
◇看護学科の主催する学会や研究会への支援
◇他学部同窓会との連携

お悔やみ申し上げます(敬称略)

- 旧20回生 的場ミトエ(旧姓中尾) H29/5/12
- 旧22回生 藤井 花子 H29/7/26
- 旧25回生 吉田カツ子(旧姓堀田) H28/8/3
- 旧29回生 筑紫マサエ H29/8
- 旧37回生 杉野智恵子(旧姓西田) H27/3/2
- 旧45回生 井形 律子(旧姓古賀) H29/7/22
- 旧45回生 杉山 淳子(旧姓田中) H30/2/6
- 旧48回生 今福 悦子 H23/7/14
- 旧51回生 栗木 克己 H27/12
- I部2回生 小嶋 玲子(旧姓前田) H29/8/21

(この1年間にご連絡を頂いた方です)

同窓会事務室案内

場 所：看護学科B棟(旧専門学校校長室)
住 所：〒830-0003
久留米市東櫛原町777-1
時 間：月・木9時～13時まで
事務代行者待機の曜日と時間
その他はFAXをご利用ください。

TEL：0942-31-7590
(内線3960)
FAX：0942-37-0322
URL <http://nurse.kurume-u.ac.jp/>
kurume_kango_dousoukai@yahoo.co.jp



- 河野 敏子 (I部7回生)
- 本多 裕子 (I部20回生)
- 村岡久美子 (I部20回生)
- 吉田 忍 (I部20回生)
- 塗木 京子 (I部20回生)
- 秋月真由美 (学科7回生)
- 岡村 光子 (学科7回生)

編集委員

編集委員一同

編集後記

同窓会の皆様にご助力を賜り、無事にふたば25号を発行することができました。今年久留米大学は開学90周年を迎えました。ふたばに寄せられた皆様の想いが、次の100周年に向かって、各地で活躍されている同窓生の皆様のさらなる力となりますように。